



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2015-2016年度 第36週報 No. 1925 2016年(平成28年) 3月25日 第1925回 例会記録 4月1日発行

本日〈4月1日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献立 ローストビーフ
- ◆ 卓話 『『魅せる男の姿勢術』
～あなたはポジティブ体質？
それともネガティブ体質？』
ボディスタイリスト 比嘉美佐子 様

〈〈本日のBGM〉〉
アルバム「ベスト・オブ・フランク・シナトラ」



PHOTO 小池将夫会員

司会 小山 市康 副幹事

誕生日祝 神奈川RC 金野 克佐様 (3月31日)
横溝 亘 会員 (3月10日)

点鐘 江森 国一 会長

斉唱 「手に手つないで」

四つのテスト 山本 芳弘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 染谷 ゆみ 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 神奈川RC 金野 克佐 様
横浜本郷RC 臼井 厚之 様



2015-2016年度 RI会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン



世界へのプレゼントになろう

第2590地区 ガバナー 箕田 敏彦

会 長 江 森 国 一	会 計 渡 邊 淳
会長エレクト 植 田 清 司	副 会 計 白 井 康 夫
副 会 長 矢 野 修 二	S A A 長 井 章
副 会 長 加 藤 仁 昭	副 S A A 白 鳥 厚 夫
幹 事 朝 日 達 夫	副 S A A 澁 谷 高 弘
副 幹 事 小 山 市 康	クラブ会報 田 中 龍 太 郎

例会日 毎週金曜日 0:30～1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

結婚記念日祝

渡邊 淳 会員 (3月25日)
 長井 章 会員 (3月29日)
 竹山 洋 会員 (3月29日)
 岩澤 利雄 会員 (3月30日)



出席報告

梅崎 興生 出席副委員長

会員総数	52名	(31+21)名	
出席会員数	41名	(25+16)名	
出席率	87.23%		
ゲスト	1名	ビジター	2名
前回補正後	91.49%	前々回補正後	90.00%

スマイルボックス

長井 章 SAA

神奈川RC 金野克佐様 いつもお世話になります。本日は、お誕生日祝いをありがとうございます。3月31日で85歳になります。横浜本郷RC 臼井厚之様 久しぶりにお邪魔しました。本日は、宜しくお願い致します。

横溝 亘君 誕生日祝い、ありがとうございます。ようやくカ・ン・レ・キになりました！！

岩澤利雄君 結婚祝いをありがとうございます。金婚式も過ぎて7年経ちました。一人暮らしも気楽ですが、寂しくもあります。

渡邊 淳君 今年も結婚記念日を祝って頂き、ありがとうございます。結婚記念日当日にお祝いをして頂き、ラッキーな気分です。ようやく息子たちが巣立ち、自由な時間が出来るかと期待していましたが、行き先が大学から会社が変わっただけで、今まで通りの生活を続けています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

江森国一君 例会終了後、40周年の合同ミーティングがありますので、皆様、ご参加をお願い致します。

西山 潔君 染谷様、本日の卓話、宜しくお願い致します。楽しみにしております。

植田清司君 染谷ゆみ様、本日の卓話、宜しくお願いします。楽しみにしています。

天野公史君 染谷さん、本日はお忙しいところ、ありがとうございます。壮大な試みですが、着実に進んでいますね。おめでとうございます。

茂木知子さん ~お礼とご報告~米山奨学生でお世話になった林さんが、無事、横浜国大を卒業致しました。小学校の教員免許と支援学級の教員免許も取得出来たそうです。会員の皆様のご支援を感謝しております。本来は、会員の皆様の前で、ご報告しなければならないことですが、奨学金を辞退したこともあり、例会に出席出来ないことをお詫び致します。現在は、故郷の福建の民間の日本語学校で、日本語を教えているそうです。日本語を学びたい中国人がどんどん増加しているそうです。自分もいつか日本語を教える学校を作りたいという希望があるそうです。日本と中国の懸け橋になれて、嬉しいと感謝しております。今年度はモンゴルの女子学生が配属されました。変わらぬご支援をお願い致します。

長井 章君 結婚祝いありがとうございます。

3月25日	11件	46,000円
本年度累計		1,559,913円

会長報告

江森 国一 会長

・特別養護老人ホーム けやき荘より、当クラブが平成21年に寄贈したおかめ桜の写真が届いておりますので回覧します。

幹事報告

朝日 達夫 幹事

・白鳥会員より君津ロータリークラブのバナーを預かっておりますので回覧致します。

◎例会変更のお知らせ

*横浜北ロータリークラブ

6月14日(火) 年度末旅行

委員会報告

雑誌委員会 委員 白井 康夫

雑誌委員の白井でございます。雑誌委員会報告を行わせて頂きます。

「ロータリーの友」3月号の横書き12ページから「あれから5年……」と題しまして、東日本大震災についての特集記事が掲載されております。東日本を襲った未曾有の大災害について、ロータリークラブが取り組んできた軌跡について記載されております。

次に、縦書きの4ページSPEECHに、「人は自然災害とどう向き合うか」と題した講演要旨が掲載されております。人は自然災害からどう身を守るかということについて記載されております。

東日本大震災から5年を経過した節目の時期に、改めて災害について考えるために2つの記事をご紹介致しました。

会員の皆様におかれましては、是非ご一読のほど、よろしくお願い申し上げます。

「街を油田に！」

(株)ユーズ 代表取締役 染谷 ゆみ 様
(卓話者 天野 公史 会員)



こんにちは、TOKYO油田の染谷ゆみです。

突然ですが、皆さんが好きな揚げ物で使い終わった油、どうしていますか？使用済みの油を処分するのは厄介ですが、実は、その天ぷら油で私は世界を変えたいという夢を持っています。名づけて「TOKYO油田プロジェクト」です！

“油田ってなに？”と思われるかもしれませんが、日本には1年で40万トンもの揚げ物で使い終わった油がでます。これをエネルギーに変えれば、東京の電力の一旦を担える！持続可能なエネルギーを太陽でも風でも原発でもなく、天ぷら油から作ることができます。

ご家庭や飲食店で使い終わった油を、もし下水に流したら・・・スプーン1杯（5cc）の油を魚が息できる水質にするには、なんと風呂おけ40杯のお水が必要になってしまいます。皆さんがこの油を捨てずにリサイクルすることで、使い終わったベタベタの天ぷら油から体を洗う石けんができます。キャンドルも作れます。江戸時代は、菜種油で火を灯していました。ご家庭で使用された油でロウソクができれば、停電のときなどにも安心です。灯りも取れる上に、100ccのお水が10分でお湯になります。

また、私たちが世界で初めて開発した、天ぷら油リサイクル燃料；Vegetable Diesel Fuel（VDF）は、車を走らせたり電気を作ったりできるのです！

さて、なぜ私がこんなに環境問題に必死で取り組んできたか、どうして代替エネルギーを生むことになったのか、少しだけきっかけをお話します。

私は18歳の時、バックパックでネパールへ旅に出ました。そこで実は大規模な土砂災害に遭い、九死に一生を得ました。2度目の誕生日だったと思います。そのとき、現地の人々が教えてくれたのは「ゆみ、これは天災じゃないんだ。人災なんだよ」ということでした。その時初めて人間によって自然が壊されていることを実感しました。およそ30年以上前、80年代のことでした。日本ではバブル経済真っ只中。環境へ目覚めるような雰囲気はまったくなく、日本では核のごみの処理方法が決まらぬまま原発政策がとられていく中で、私も私のスタッフも必死で廃油を回収し、なんとかか少しづつ少しづつ、代替エネ

ギーの必要性を訴えてきました。

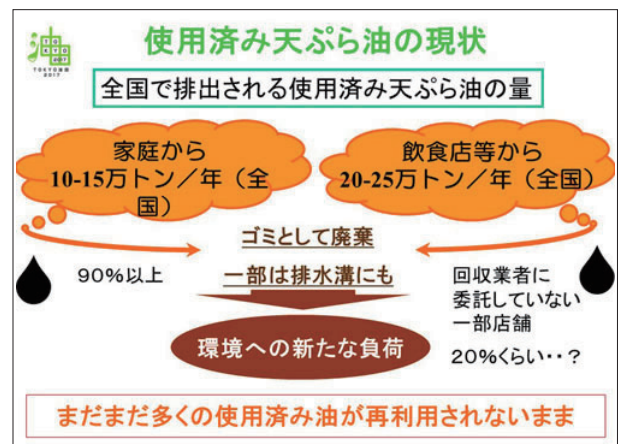
しかし、そんな中、東日本大震災が起き、福島第一原発の事故がありました。今も、この原発の影響で数十万人がふるさとに帰れず、家族や友達ともバラバラに暮らしています。私は本当に悔しくて悲しくて、体の力が抜けていくようでした。

あの時、東北へ私たちは廃食油から作られた軽油代替燃料で車を走らせ、救援物資を運びました。多くの人から「廃油で車が走るの？」と驚かれ、「こういうエネルギーを作ってこなければならなかった」と言われました。落ち込みながら行った被災地で、みなさんに逆に励まされました。

救援物資と一緒に、近所の花屋さんから託されたお花を運びました。そのお花は食料や医薬品よりも人々の心を癒しました。皆さんに心から「ありがとう」と言ってもらいました。そのお花を届けることができ、本当によかった、やってきたことは間違いではなかったと、心から思いました。その時、私はもう一度、3度目の誕生日を迎えたのです。

廃食油から作られる軽油代替燃料はディーゼルより環境にやさしく、また回収することによって人々の意識を変える素晴らしい代替エネルギーです。

皆さん、どうか私たちと一緒に、“TOKYO油田”をつくりませんか？TOKYOに油田を本当につくることができれば、現在のエネルギーの多くを廃油でまかなうことができ、人々は無駄に油を排水溝へ捨てなくなり、子どもたちはエネルギーの大切さを学びます。延いては、日本全国に“油田”をつくりませんか？是非一緒にチェンジアクションしてください！



使用済み食用油がエネルギーに変わる！

天ぷら油リサイクル燃料:VDF
(Vegetable Diesel Fuel)
* 軽油代替燃料

【CO2削減効果】
軽油使用時と比較して・・・
1リットルあたり2.62kgのCO2を削減！！

【使用例】
・ディーゼル車の燃料
・イベントの発電機の燃料

【メリット】
・厄介者の使用済み天ぷら油がエネルギーに
・硫黄酸化物が発生しない
・黒煙の排出量が軽油の1/3以下に
・軽油と変わらぬ燃費と馬力
・車の改造は一切不要

ロータリーニュース

弾圧の獄中生活、人を許すことの大切さ

クイーンズランド大学
2012-13年度ロータリー平和フェロー
ナイング・コウ・コウ

私が母国ビルマ（現ミャンマー）ではほかの学生たちと、民主化、人権尊重、社会正義を訴えるデモに参加し始めたのは1988年のことです。その4年後に私は逮捕され、尋問キャンプで足かせを架けられ、殴られ、眠ることも許されずに2カ月間過しました。目隠しをされた上に、頭に袋をかぶせられていたため、昼夜の区別がつかないまま、同じ尋問を何度も何度も繰り返され、まさにジョージ・オーウェルの『1984年』そのものの体験でした。その後、特別な法廷で弁護士もなしに裁判を受け、そのまま刑務所に送られました。

勉強の機会がまったくない刑務所で、私は釈放後海外に留学することを夢見ました。ある看守を言いくるめ、英語の辞書と経済学の本を手に入れことができたので、監房の壁に穴をあけて入れておき、その上に仏様の絵をかけて隠しました。昼は眠り、夜になると勉強をする毎日でした。

ところがある夜、本を隠さないまま眠りに落ち、それが見つかってしまったのです。飼犬用の監房に移動された私は、また足かせを架けられ、犬のような生活を強いられました。看守が私の名前を呼ぶたびに、「ワンワン」と鳴いて、顔を床に押し付けろと言われて、看守の顔を見ることは許されませんでした。看守が床に放った食べ物を、手を使わずに食べ、水も床に置かれた皿から飲みました。

刑務所のそのような状況に耐え切れず、中には頭から壁に激突して自殺する人もいました。しかし私は、このまま意地を張り続け、敵対的な態度をとって生きていくことはできない、現実を受け入れ、精神状態をコントロールしなければ発狂してしまうと気づくようになりました。そうしなければ、いずれは冷血な刑務所長の前で死に、彼らに負けたことになる。

でも、私たちを監視していた看守は皆、教育のない、体制に身を任せた人たちです。そこで私は、彼らに話しかけ、自分たちは、人殺しなどではなく、勉強をする権利、民主国家を築く権利を求めている学生に過ぎないことを説明し、マーチン・ルーサー・キング牧師や、マハトマ・ガンジーなどの例を挙げて説得しようとしてみました。

反応を見せない看守が多かったにもかかわらず、私は声を上げて説得を続けました。すると何人かの看守が反応するようになり、彼らとは少しずつ親しくなって、最後には親友になることができました。

入所後6年8カ月で、私は釈放されました。今は、海外留学の夢がかない、キャンベラのオーストラリア国立大学で学業に励んでいます。民主化運動に参加して刑務所に送られた人たちで、博士号を取る機会を得られたのは私だけだと思います。

1988年の民主化運動で亡くなった人は、3,000人を超えていると言われています。それ以外に、私のように民主化と人権尊重を訴えて刑務所送りになった人は何千人もおり、今では「88年の世代」と呼ばれています。

あの「犬小屋」のような経験は、決して忘れることはできません。しかし、看守たちを許すことができるまで、私たちが真に進むことはできないと考えています。怒りを抱えたまま民主国家を築くことはできません。互いに許し合い、正義について語り合うだけでなく、報復と正義を混同しないことも必要です。

私にとって最も良い「見返し」の方法があるとしたら、それは母国の制度の変革を支援できる人間となることです。いずれは国に戻り、主任政策アドバイザーになって、政治的腐敗、貧困、社会正義、そしてなによりも平和に取り組みたいと考えています。また、あの醜い歴史が二度と繰り返されることがないように、あの尋問キャンプを資料館にできればと願っています。

ロータリーニュース

4月の例会献立

◆4月15日 ビーフカレー

◆4月22日 初カツオミニ御膳

次回〈4月8日〉の予定

4月8日（金）⇒ 9日（土）移動例会「春の家族会」
40周年記念事業 “ドリームアイス”